教育関連記事

エデュサン

edu sun

12

2025 / No.122

毎年恒例のスキープログラムには今年も小学高学年から中学生まで多くの子どもたちが参加。初心者はリフト乗車や初級コース滑走に挑戦し、初・中・上級者はターン技術や姿勢、ストックワークなどを重点的に学んだ（ペンシルベニア州キャメルバックスキー場、photo: ニューヨーク育英学園）

発行／ DAILYSUN NEW YORK LLC　1270 Avenue of the Americas, 7th Floor, New York, NY 10020
TEL：646-327-6443　WEB：www.dailysunny.com　E-MAIL：info@dailysunny.com

edu sun INDEX

1. 教育レポート

◆ JAL 職員と考える、空の仕事と地球の未来　NY 育英学園サタデースクール・ポートワシントン校

◆井道千尋二段が来校、将棋教室を開催　NY 育英インターナショナルスクール

◆「エネルギーを通じて世界を理解する」ENEOS が出張授業　NY 育英インターナショナルスクール

◆ダブルダッチチーム、国際大会で優勝　NY 育英学園

◆「見極める力を身に付けよう」情報リテラシー教室を開催　NY 日本人学校

2. NY 教育関連ニュース

◆マンハッタンの公立校が「ICE」から通称変更
　米移民・関税執行局（ICE）との混同避け、悪印象の払拭図る

◆映画・音楽界のスターを目指すならココへ、世界のベスト音楽大学ランキング

◆分断の時代…アメリカ名門大の入試にも変化、「意見の相違に向き合う力」も評価対象に

エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

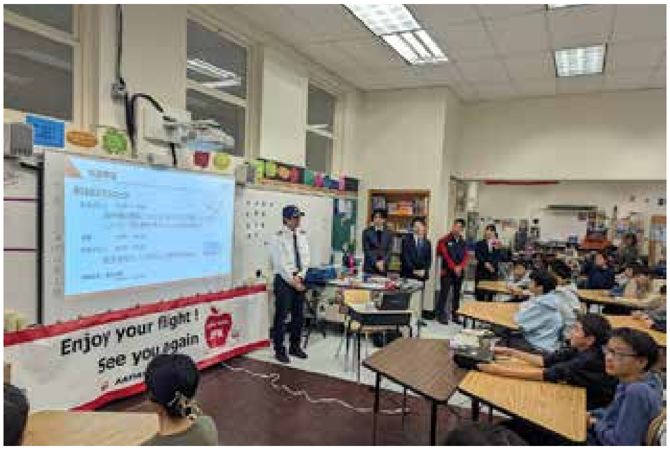
JAL 職員と考える、空の仕事と地球の未来

NY 育英学園サタデースクール・ポートワシントン校 11/22/2025

ニューヨーク育英学園サタデースクール・ポートワシントン校は昨年 11 月 22 日、日本航空（JAL）を招いた特別授業を実施した。中・高等部の生徒を対象にした課題研究授業の一環。当日はニューヨーク支店長をはじめ、客室乗務員、整備士、運行管理者などさまざまな職種から 7 人が講師として参加した。

授業では、飛行機の運行に関わる各職種の業務紹介に加え、日本航空における SDGs への取り組みを紹介。整備士や運行管理者の役割や、安全運航を支える細部へのこだわりについても話を聞いた。SDGs の具体的な取り組みとして JAL では、飛行機のタイヤは約 300 回の離発着ごとに表面を張り替えて再利用し、約 6 回使用後に廃棄することで、ゴム生産に伴う排気ガスの削減に貢献している。

生徒たちは普段聞くことの少ない航空業界の現場の話に熱心に耳を傾け、90 分間の授業の最後には JAL のスタッフからサプライズとして特別なプレゼントが贈られ、大いに盛り上がった。生徒たちからは「飛行機の運行にこれほど多くの人が関わっているとは思わなかった」「座席のクッションのしわまで確認していることに驚いた」「空から森林火災を発見した際、即座に報告する仕組みは合理的だと思った」など、多くの学びと驚きに満ちた感想が寄せられた。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園サタデースクール・ポートワシントン校）



制服で登壇した JAL 社員「カッコいいな！」

JAL のニューヨーク支店長も来校

熱心にノートを取る生徒たち

井道千尋二段が来校、将棋教室を開催

NY 育英インターナショナルスクール　12/4/2025

ニューヨーク育英インターナショナルスクールの全日制小学部は昨年 12 月 4 日、井道千尋棋士（二段）を招き、将棋教室を開催した。現役で活躍するプロ棋士を前に、子どもたちは一手一手に集中しながら、日本独自の知的文化に触れる貴重な時間を過ごした。

今回は、初めて将棋に触れる子どもでも楽しめる「ぴょんぴょん将棋」を中心に実施。シンプルなルールで駒の動きを理解しながら考える楽しさを体験できるとあって、子どもたちはあっという間に夢中になって盤を囲んだ。また、将棋の経験がある子どもには本格的な対局も用意され、各自のレベルに応じた学びが深まった。

まずは両者挨拶から始まり、対局に挑む。慎重に駒を進める子、大胆に勝負に出る子などそれぞれの性格が顕著に現れる試合運びとなった。勝敗が決まり、負けた方は潔く「負けました」と頭を下げる。なぜ負けたのかをその場で考察するなどして、熱中具合がうかがえた。

参加した子どもたちからは、「もっと強くなりたい」「本当の将棋も覚えたい」「負けたけれど、また挑戦したい」といった声が聞かれ、初めての体験が大きな刺激となったようだった。休み時間に将棋盤を借りにくる児童もいて、今回の取り組みが日常の遊びや学びにもつながっているのが感じられた。将棋を通して子どもたちは、挑戦し、失敗し、また挑戦するという姿勢を自然に体感した。井道二段の温かくも本格的な指導は、子どもたちの意欲を引き出し、学びの楽しさを改めて感じさせるものとなった。（情報・写真提供：NY 育英インターナショナルスクール）

おにぎり 1 個分のご飯の量はどのぐらいかな？

分かりやすく丁寧に教えてもらったよ

将棋の駒に初めて触れたよ

「エネルギーを通じて世界を理解する」
ENEOS が出張授業

NY 育英インターナショナルスクール　　12/8/2025

ニューヨーク育英インターナショナルスクールは昨年 12 月 8 日、ENEOS アメリカによる特別授業を、小学 4 ～ 6 年生を対象に実施した。当日は「エネルギー」をテーマに、同社が展開する事業内容や未来のエネルギーについて、スライドを用いて紹介。化石燃料から得られる石油にとどまらず、持続可能なエネルギーを生み出す方法や、近年注目を集めている「SAF（Sustainable Aviation Fuel)」、オイルショックなどエネルギーを巡る歴史から、未来への取り組みまで幅広く解説した。授業の最後にはエネルギーに関するクイズも行われ、子どもたちは日常生活とエネルギーとの関わりや、環境問題が国や地域を越えてつながっていることを楽しく学んだ。また、サプライズとして ENEOS のキャラクター「エネゴリくん」も贈られ、子どもたちは大喜びだった。

ENEOS は「子どもたちの学びに少しでも貢献できれば、との思いからこの授業を引き受けた。エネルギー分野での課題や持続可能な社会の実現に向けた取り組みを子どもたちと共有でき、当社の役割や事業内容も知ってもらえた。今回のような活動を通して、海外の教育分野にも積極的に貢献をし、未来を担う子どもたちと共にサステナブルな社会の実現に向けて歩んでいきたい」とコメントしている。（情報・写真提供：ニューヨーク育英インターナショナルスクール）

石油と人類との理想的な共存について学びを深めた

エネルギーについてどのくらい知っているかな？

テキサス州ヒューストンから来校した Eneos アメリカの井上亮副社長（右）

ダブルダッチチーム、国際大会で優勝

NY 育英学園 12/14/2025

国際ダブルダッチ大会が昨年 12 月 14 日、マンハッタンで開催された。日本、フランス、香港をはじめ、世界各国からチームが集う中、ニューヨーク育英学園から出場した 7 年生チーム「Fuji」がスピード部門で優勝、同学園は他に 4 部門でも入賞するなど輝かしい結果を残した。この大会への同校の出場は、今回で 16 回目。毎年安定した成績を収めており、昨年度は 1 チームが 3 位に入賞。今年度は複数部門での入賞を果たし、チーム全体として大きな飛躍を遂げた。

ダブルダッチは、2 本の縄を使って行う競技で、回し手が操る縄の中を選手がスピーディに跳びながら、ダンスやアクロバットを組み合わせたパフォーマンスを披露する。瞬発力や持久力、リズム感、チームワークを養うことができるため、幼児や小学生の、いわゆる運動の「ゴールデンエイジ」に適したスポーツとしても知られている。主な競技は、2 分間の跳び回数を競う「スピード部門」と、音楽性や構成力、表現力を競う「フュージョン演技部門」で、近年は日本国内でも地方大会や全国大会が数多く開催され、オリンピック競技化に向けて世界的に人気が高まっている。

同学園でダブルダッチクラブを指導するのは、数々の国際大会で優勝経験をもつ笠間将平教諭。成長段階に応じた丁寧な指導と、技術面のみならず、挑戦する姿勢や仲間と協力する大切さを重視したアプローチが特徴だ。練習は週 3 回行われ、小学生から中学生までが在籍する。笠間教諭は「国際的な舞台で優勝という結果を残せ、子どもたちは大きな自信につながったと思う。日々の努力が国や文化を越えて評価された経験は、今後の人生においても大切な財産になると確信している」と話した。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園）

スピード競技で熱演する子どもたち

演技終了後の決めポーズ

表彰式では真紅に輝くトロフィーが授与された

大会後、会場前で。みんないい顔してます

「見極める力を身に付けよう」 情報リテラシー教室を開催

NY 日本人学校

12/16/2025

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は昨年 12 月 16 日、初等部 5、6 年生および中等部の児童生徒を対象に「情報リテラシー教室」を開催した。IT サービス会社 SCSK USA の上條さんが、インターネットの危険性や未然にトラブルを防ぐ方法を専門的な立場から分かりやすくレクチャーした。

インターネットの危険性には、個人情報の漏洩、サイバー犯罪、人間関係のトラブル、健康被害、誤った情報への接触（偽情報）、闇バイトへの誘いなど多岐にわたり、個人情報の特定や悪意ある誘導によって深刻化する。さらに近年はリスク対象が若年化しており、深刻な社会問題となっている。上條さんは、①情報源はいつどこからのものか ②発信者は信頼できるか ③他のメディアはどのように伝えているか ④画像は本物か、の 4 つの視点から「情報を正しく見極める重要性」について解説。児童生徒たちは具体的な例を基に、改善点やインターネットのより良い使い方について意見を出し合いながら学んだ。この日はまた、職員を対象とした情報リテラシー研修も実施。数々の事例を参考にしながら、学校や家庭でのルール作り、アプリの設定、フィルタリングの重要性について理解を深めた。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）

真剣なまなざしで話を聞く児童たち

上條さん（中央）と初等部の児童

上條さんにお礼の言葉を述べる生徒代表

上條さんと中等部の児童

エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS

学校のバザーで新しい通称を施したトレーナーを販売する保護者（The Institute for Collaborative Education の
公式インスタグラム（@ice_schoolnyc）からスクリーンショット＝ 2025 年 9 月 6 日）

マンハッタンの公立校が「ICE」から通称変更
米移民・関税執行局（ICE）との混同避け、悪印象の払拭図る

12/8/2025

通称「ICE」として知られてきたマンハッタンにある進歩的な公立校、The Institute for Collaborative Education は、ニューヨーカーからの反発著しい米移民・税関捜査局（ICE）とのイメージ混同を避けるために「Ny. ICE」（発音は Nice）を使っている。地元ニュースサイトのゴッサミストが 4 日、伝えた。

The Institute for Collaborative Education は、スタイブサントタウン - ピーター・クーパー・ビレッジ（1 番街～アベニュー C、東 14 ～ 23 丁目）にある小規模な学校。6 ～ 12 年生が通う。実践を重んじ、標準テストの代わりに、プロジェクトやレポート、実験などで評価する。

「ICE では不必要な混乱と感情的反応を引き起こす」とピーター・カープ校長。「これからは学校のコミュニケーションには Ny. ICE を使う」と今年初めに書簡を送った。校名を変更したわけではない。通称を変えただけだ。ホームページは併用しているが、コーヒーマグやスエットシャツ、スポーツチームのユニフォームなどは Ny. ICE を使う。新しい通称は浸透しつつある。

生徒の反応も上々だ。モシ・ネイサンさん（16）は「『私は ICE に通っているんだ…』と言うのは響きが悪いです…あの人たちとは関わりたくないでしょう。Ny. ICE なら、コミュニティーを包み込むイメージがある」と話す。3 年生の保護者、アリソン・ライリーさんも「学校に誇りを持ってほしい。ICE と混同されるべきではない。政治とは無関係であるべきだ」と、通称変更を歓迎している。

トランプ政権になって、市内の保護者や教員は法的滞在許可を持たない移民の権利に関する赤いカードを配布。ICE を見かけた場合に、コミュニティーに知らせる暗号化チャットも開発している。これまでに少なくとも 2 回警告メッセージが流れ、校内に生徒をかくまった。

２位に選ばれたバークリー音楽大学

映画・音楽界のスターを目指すならココへ 世界のベスト音楽大学ランキング

12/9/2025

映画のシーンを盛り上げる音楽。エンタメ情報誌、ハリウッドレポーター（THR）が地元音楽界のスターを育成する世界のベスト音楽大学リストを発表した。選考には作曲と演奏の基礎を重視。映画芸術科学アカデミーなど権威ある業界団体に属する作曲家や作詞家にアンケートを実施して作成、トップ 10 をアメリカ勢が占めた。

1 位　コロンビア・カレッジ・シカゴ（イリノイ州シカゴ）

２年間の映画音楽作曲修士課程を提供。長編映画、テレビ、ビデオゲーム、その他の視覚メディアの音楽に焦点を当て、ロサンゼルスで５週間のセメスターを修了する。

著名な卒業生：バトゥ・セネル（作曲家）

授業料：３万 7344 ドル。

2 位　バークリー音楽大学（マサチューセッツ州ボストン）

超有名校。音楽ビジネス、作曲、演奏、音楽療法など幅広い分野で実践的な教育を行う。メディアとのタイアップも盛ん。秋吉敏子、渡辺貞夫、小曽根真、上原ひろみ、ミッキー吉野、佐藤允彦など、日本の著名音楽家も多数輩出。

著名な卒業生：クインシー・ジョーンズ（ジャズミュージシャン、プロデューサー、作曲家）、ハワード・ショア（ロード・オブ・ザ・リング三部作の作曲家）

授業料：５万 2440 ドル。

3 位　ジュリアード音楽院（ニューヨーク州ニューヨーク）

国内で最も歴史と権威のある音楽学校の一つ。高額な授業料で知られているが、今年４月から全学生の授業料を無料にする募金キャンペーンを開始。学生の約 40% が既に授業料を免除されている。

著名な卒業生：ユーニケ・タンジル（作曲家、レコーディングアーティスト）、トニー・ユン（ピアニスト）

授業料：５万 5500 ドル

続きはウェブへ

コロンビア大学（photo: Unsplash / Santeri）

分断の時代…アメリカ名門大の入試にも変化「意見の相違に向き合う力」も評価対象に

12/18/2025

政治的分断が深まるアメリカで、大学入試にも変化が起きている。名門大学の入試でいま重視され始めているのは「成績」や「課外活動」だけではない。自分と異なる意見にどう向き合い対話できるか、その姿勢が新たな評価軸として浮上。ハーバード大学やコロンビア、エモリー、ウェルズリー大学などは近年、出願者に対し「自分とは信念の異なる相手との論争体験」をテーマにしたエッセーの提出を求めるようになっている。ウォール・ストリート・ジャーナルが 11 月 25 日、伝えた。

「ディスアグリーメント・エッセー（disagreement essay）」と呼ばれるこの課題の導入は、保守派が名門大学を「自分と異なる意見を許容できないリベラルな集団思考の温床」と批判する中で広がっている。大学側は、学生が他者の見解をどの程度受け止め、建設的に対話できるかを見極める狙いがあるとしている。ニューヨーク大学（NYU）は出願者向けサイトで、分断の「“ 橋渡し役 ” になりたい学生を求めている」と明言。デューク大学は、昨年の「意見の一致または不一致」のいずれかを選べる形式から、今年は「大切に思う人と意見が食い違った経験と、そこから何を学んだか」を問う踏み込んだ内容に変更した。

入学コンサルタントは、エッセーで「成長」と「相互学習」を示すよう志願者に助言し、極端な対立や未解決の衝突については避けるよう勧めている。また、入学アドバイザーやインフルエンサーが、「保護者との議論は書かない（未熟さを示す）」「政治的意見は押し付けない（論争を招く）」「意外性のある題材を選ぶ」など、回答のコツをネット上で大量に発信している。

続きはウェブへ

supported by

maruho

CBC GROUP

edu sun